

## 第1期 国分寺市公民館運営審議会 平成28年度第12回定例会 要点記録

日時 平成28年6月21日(火) 午後2時～4時

場所 国分寺市立本多公民館 講座室

出席者

委員 佐藤委員長・田中(英)副委員長・門委員・長谷部委員・萩原委員・戸澤委員・大澤委員・北邑委員・田中(雅)委員(欠席委員2人)

職員 山崎公民館課長兼本多公民館長・秋元恋ヶ窪公民館長・加藤光公民館館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・齋藤本多公民館事業係長・木場主任

### 1 連絡事項

(1) 配布資料確認

(2) 第10回定例会要点記録⇒11回定例会にて修正の確認と承認をいただいたので再度送付した。

第11回定例会要点記録⇒6月中に発送するので、7月10日までに確認し、変更等がある場合は連絡をいただきたい。

### 2 報告事項

(1) 平成28年度第2回市議会定例会について

事務局：一般質問は1件。「公民館で実施している知的障害のある人たちのための「くぬぎ教室」のスタッフに対し、障害者差別解消法の研修を行う必要があるのではないか」との質問があった。教育部長が「スタッフの中には福祉の専門の有資格者や社会教育を学ぶ人もいることから、障害者差別解消法の趣旨について周知していく」と答弁。担当者会で話し合い、スタッフ会議で障害者差別解消法について取り上げる。文教子ども委員会での公民館課の報告事項はなし。補正予算もなし。

(2) 平成28年度第5回国分寺市教育委員会について

事務局：公民館課の議案・報告事項はなし。国分寺市立図書館の職員に対する請願が出されている。審議し、請願の2点(図書館に司書の配置、図書館に精通した職員を育てるための職員の配置)については、すでに取り組んでいることであるため不採択。他に欠員補充に伴う社会教育委員の会議の委員委嘱について審議、教科書選定のための要綱の制定の報告。

### 3 協議事項

(1) 答申について

事務局：資料1に基づき説明。

委員長：資料1を参考にフリー討論を行う。田中委員に補足説明をお願いする。

委員：何ページくらいのを何部作るのか、庁内印刷だと写真が綺麗にできる仕上がりになるのかなどを聞きたい。このたたき台について事前に委員長と

事務局とで意見交換した。第一部のⅡが今回の答申でとても重要な部分。国分寺市の公民館が、地道に公民館活動をしてきて、地域づくりという側面からこんなにすごいことをしてきたという視点で、一般の市民や行政に明確にアピールする形で書いていく。公民館の果たしてきた地域づくりの役割を明確にあらわしていく。それを第二部のⅢでまとめ提言とする。Ⅱの1～6のうち2を除くと、ソフト的な内容の印象を受ける。ソフト的内容とは、人と人とのつながりや、人と人が動いていくということ。2はハードになるが、農地だとか歴史的建造物がハードの部類に入る。公共施設の再配置などが国分寺市でもあると思うが、それに関して住民の生活を守るという観点でどうアプローチができるか。住民主体の学びをしようとした時に公民館は中心になる。社会教育の事例として有名なのが、三島市や沼津市のコンビナートの事例がある。住民が自ら学んで市長に訴え、コンビナートを阻止したという例である。特に成熟した都市において、公民館活動の中では、実際にこれまではそういったことはなかった。これからの公民館は、住民が主体的に学習や活動をし、政策に対し影響を及ぼせることができるかが大事。その点が第二部に入ってくればいいと思うが、ハード面はⅢの2に含まれる。ソフトな問題とハードな問題、ソフトとハードが絡み合った問題がイメージされⅢの2ができればいい。序の四角にはⅢの4本柱を入れるべきと思う。

委員長： 宣言みたいにするということか。国分寺市が「まち」として発展していったその時に5館の公民館構想があった。まちづくりの顔が公民館の5館体制ではないのかと、振り返ってみるとそういう位置づけをするのも、とてもユニークでいいのではないかと思う。これからの国分寺市のマスタープランを考えた時に、まったく新たなものは想定できない。国分寺駅前の再開発によって人口が増えることがあっても、本多公民館の公民館運営サポート会議の委員のみなさんは関わるとしても、他の公民館の委員が関わるとは思えないし、ハード面の改革が行われることは想定できない。よその自治体で起こっていることは、公民館を一掃すること。公民館を半分に減らすとか、コミュニティセンターと一体化するとか、少子高齢化に向けた統廃合とか。国分寺市ではそういったことはまだ起こっていないため、田中委員のいうハードな面をイメージするのはなかなか難しいと思うので、最初に発言していただいた。

委員： たたき台は読んでよくわかる資料になっている。誰に読んでもらうのかという課題はある。どういう形でこの答申が使われるのかという話が前回もあったが、未来の国分寺市に役立つ答申としての役割がある。今まで担ってきた役割と、これから担うべき役割をメッセージとし、どう目指していくのかを書くべきだと思う。公民館のリストラになってしまわないために、過去の成功体験もいいいけれど、これからの国分寺市に公民館がどう関わっていくかを明確にし、公民館が関わるまちづくりが続いていくのだということを書く。Ⅳの各公民館運営サポート会議の提言を踏まえた上で書くこ

とも重要。予算の関係で今までできなかったことも入れていけると、未来志向になる。

委員：公民館の将来に向けて書くことは、今の公民館とあまり変わらないと実感している。本多公民館で公民館運営サポート会議委員をしながら公民館活動をしてきているが、なかなかハード面というと思いつかない。「まち」というと、「地域を語るサロン」でまち歩きをしたことがあったが、事業として報告書は残せるが、「まち」としてのハードを次につなげられなかった。並木公民館の農業を子どもと一緒に体験するなどのことができたらいいと思ったが、本多という地域にうまく取り入れられなかった。未来の子どもたちとこれからに活かせるらしい。本多地域の昔を知る講座や、コミュニティガーデン造りなどいろいろな活動をしてきたが、そのような取り組みをしたことがつなげられればいい。それが課題だと思う。

委員長：「地域を語るサロン」やコミュニティガーデンについては、事例には出てきていなかったのも興味深い。

委員：七小ですいとんづくりをする時に、本多地域の昔を知る講座で使った資料を利用している。

委員長：本多公民館の提言の中にはそれを盛り込んでほしい。地域をつなぐことや地域と子どもをつなぐことを入れてほしい。

委員：光公民館の場合、他の4館とは状況が違うような気がする。地域性が密着してなくて、唯一つながっているのが学校。学校のつながりはあるが、地域としてのつながりが少ない。自治防災は強いし、ハケの会が講座を持っている。地域とのつながりを強めていくような形で、公民館を使ってもらえるようになるとうい。

委員：公民館運営審議会に参加して知ったが、「三多摩テーゼ」というものは公民館にかかわらなかつた時には知らない言葉。せっかく答申をだすのだから、誰かに影響を与えられるような提言にしたい。公民館を利用していない人にダイジェスト版を読んでもらって、公民館に行ってみると面白いよということをお伝えされるような内容。さらに、公民館のある他市の自治体の職員にも読んでもらえるようなものをつくってみたい。ハード面については国分寺駅前開発ぐらいしか思いつかない。わずか3年「農業体験講座」に携わっただけだが、都市農業が危機に瀕していることがわかつた。大きな変化は見られないが、代が変わり宅地になっていく。ただ講座に参加していてもそれは止められないが、参加している人が、地域の学校や地域のつながりができていくと変えられるのではないかと思う。

委員：たたき台は、答申のまとめ方がまとまっていてよくわかつた。これから新しい公民館像を考えていかなければいけないと思っていたが、今まで公民館が地域づくりとして取り組んできたことを書くというのが腑に落ちた。道を歩いていて挨拶ができる、それが公民館の地域づくりと変わらないことだと思った。公民館の蓄積してきたことを書く。市長に、良いことするのだから予算をくださいと言いたい。今までの講座の内容が不十分だった

のではなく、発信の方法が足りなかったのだと分かった。スマートホンで検索をしていたら、クラウドファンディングについての国分寺市のNPO法人の記事があり、子どもと親がカプセル状態になっていて子育てに苦勞しているお母さんたちがいて、そのお母さんたちと子どもたちのために託児の場の提供をするというものだった。これは国分寺市の公民館が取り組んでいること。そういったところでアピールしていくのもいいと思う。

委員長：口コミよりSNSの方が本当は信頼性がないはずなのに、それに飛びつく傾向がある。公民館の情報というものをどう発信としていけるか、課題はある。

事務局：公民館は、国分寺市のホームページの中に公民館のページを持っている。公民館だより「けやきの樹」も全文掲載している。各館の各種事業はイベント情報にも入れている。ツイッターもアカウントを持っている。公的なものになるので公民館のお知らせや事業紹介の内容で発信している。多くの市民に興味を持ってもらえるような工夫をしたい。

委員長：公民館レポーターが、公民館についてホームページで紹介するなど、市民が関わってできることもある。

委員：社会福祉協議会として、公民館とどう地域づくりに関わっていけるかが課題。社会福祉協議会の中では、地域づくりはボランティアセンターが担当している。生活困窮者の担当も地域づくりについて関わっている。発信していくと思わぬところから反響があり、さらにより細やかな発進力となる。難しいと読まない。ホームページでは映像も見せられるのではないか。

事務局：印刷製本の方法についてはまだ決めていないが、庁内印刷になるだろう。写真は、カラー印刷が必要なところも庁内印刷でできる。公民館ホームページに掲載する予定である。

委員長：概要版をホームページにアップすることはできるか。

事務局：答申書と概要版をホームページに載せることはできるが、映像は重くなるので、市のホームページ管理課と相談が必要になる。

委員長：写真が載ってわかりやすくてできたら、各学校の校長先生や地域センターなどに置く部数は印刷してもらえるのか。

事務局：庁内印刷になれば職員がするので、公民館運営審議会として配布したい場所をあげてほしい。各公民館にも置くが、各図書館に蔵書として配架することもできる。

委員長：公民館の普及ということでお願いしたい。

委員：背表紙はつけられるのか。

事務局：厚みによっては背表紙をつけることは可能。

委員：課題をしっかりと課題として捉えて、載せるべきと思う。政治的な判断も、公民館の中身を支える条件整備が必要。

委員：やさしくて読みやすい答申にするのが肝心。できる限り市民の目に触れ、読みたくなるような答申にしたい。公民館は地域デビューの機会を提供してくれる、まちづくりのひとつの場所。行きたいと思うような講座を開く

場所であり、そこに行って仲間ができる土台の場所。講座を経験した人たちが次の人を育て、公民館で育った人たちがまた地域で人を育てる。もともちは平和について触れていきたい。地域デビューをした人を紹介したい。

委員長：公民館デビューは地域デビューというような人に、各館2人ぐらいだしてコラムを書いてもらうのはどうか。

事務局：各館の利用者にコラムを書いてもらうなら、各館の公民館運営サポート会議の人も含めて人選を考えたい。

委員長：公民館で育った人が、公民館を育てる。自治会とは違う、地域の公民館をだせたらいい。利用者の生の声を書いてもらいたい。

委員：第二部のⅢに、5として人材育成を入れ、公民館で人が育つということを書いてはどうか。

委員長：Ⅲは簡潔な文章でまとめる方が伝わるのでいいが、作文には苦勞と思う。次回7月の定例会で何をするか。第一部のⅠについては職員が書くことになると思うが、意見をいただきたい。

職員：公民館の地域づくりとは何をさすのか、考えたい。

職員：公民館が地域デビューになるような講座に取り組むこと、情報発信を公民館としてどのようにしたらいいかを考えたい。

職員：今回、非常に大きな内容の諮問をした。市役所のいろいろな部署で「地域づくり」ということを掲げているが、公民館としての地域づくりを諮問という形で審議していただく。国分寺市の公民館が50年取り組んできたことを評価していただくことが大事だと思う。

職員：公民館を評価していただき、これからの課題も盛り込んだ「三多摩テーゼ」に次ぐ答申をなることを期待し、職員として取り組んでいく。

職員：公民館は何をしているところなのか、今までイメージがなかった。地域をつなぐ、人と人とをつなぐところが公民館であり、その役目を担っていくのが職員。福祉の分野であればその分野の人との関わりが多いが、公民館は公民館だけでなく、福祉やその他の様々な分野との関わりがあり、いろいろなことができることが分かった。公民館を市の行政内部の人にも発信していきたい。

職員：公民館が最大公約数的な社会教育施設とわかっているけど、具体的なところがわからない。公民館の根幹にかかわるような答申づくりに関わることができ、光栄でもあり、プレッシャーでもある。公民館の成り立ちが分かっていた方がいい機会、自分の業務が腑に落ちた。

委員長：公民館は、利用した人にはわかるが、利用しない人にはわかりづらいところ。大事そうだということはわかるが、図書館、博物館と違ってわかりづらい。誰にでもわかる公民館を答申に書けたらと思う。たたき台について感想いただいたが、次回から3回ぐらいかけてⅠとⅡをまとめられたらいいかと思う。そんなに分厚いものをつくるイメージはない。すでに今までの報告の中でレジュメをだしているのだから、それを文書化すればいいと思う内容もある。例えば、地域会議は本多と並木ともまちをひとくくりに

して、「地域をつなぐ」という点で3つを箇条書き的な文章を作成し、まず骨子をつくる。最終的に文書化していくのは、正副委員長、田中委員ですが、素案の部分は各ワーキンググループでお願いしたい。7月の定例会ではⅠについて、職員の間で年代区分をし、どういう視点で描くか骨子をまとめてもらいたい。例えば、公民館保育室ではと箇条書きのレジュメを作ることはできるか。

事務局：大枠はできると思うので、簡単なものを作らせていただく。国分寺市の公民館が何を選び取り組んできたのかが、Ⅱにつながっていくのではないかと思う。それからは、ワーキンググループで検討いただけたらと思う。

委員長：では7月にⅠの骨子をだし、8月は休み、9月にワーキンググループでⅡに取り組むということでもいいか。方向整理をしてもらいたい。11月までに一巡してできるかと思う。Ⅲは委員長と田中委員とで進められるといい。

事務局：8月は23日の予定だったが、日程を変え、9月12日午後2時からでお願いする。

委員長：7月にワーキンググループを立ち上げるにあたり、希望を取りたい。複数関わっていただかないといけない。

門委員：希望なし。皆さんのお手伝いをする。

長谷部委員：1と3。

萩原委員：1と3と5。

戸澤委員：2と3。

大沢委員：1と4。

副委員長：1と6。

事務局：今日はお休みの橋本委員は6に入っていただけと思う。伊藤委員は1と3に入っていただけかと思う。

委員長：各館の公民館運営サポート会議で答申について相談してほしい。Ⅳのところをどうまとめるか。コメント風にまとめるか、どんなことが課題としてあるか、方向性を話し合いまとめてほしい。経過報告をお願いする。

#### 4 その他

##### (1) 委員部会研修について

委員：9月3日（土）東大和市の公民館で研修会を行う。今年度は1回だけ開催する予定。講師は国分寺市公民館運営審議会の佐藤一子委員長にお願いすることに。詳しい案内が届き次第、事務局から連絡してもらおう。

##### (2) 教育委員との懇談会について

事務局：10月27日（木）に行う教育委員と公民館運営審議会委員との懇談会で、懇談のテーマを次回以降に決めていただきたい。

委員長：次回以降に検討するので、考えておいていただきたい。

委員長：以上で本日は終了する。